

Case1 (2020.12.14 報告)

40代 男性

主訴:胃痛、胃もたれ感

診断名:機能性ディスぺプシア(FD)

関わった医療機関(施設):漢方クリニック、鍼灸院

診断一年を経過し、鍼灸院に来院。鍼灸院での1回/週の施術と漢方クリニックでの漢方処方
の併用により、効果を得た症例。

寸評:機能性ディスぺプシア(FD)において、漢方の役割は日々大きくなっているが、鍼灸はFDの
症状改善にその可能性が期待されているがエビデンスは乏しい。今症例は、漢方と鍼灸を併用す
ることによって症状の改善をみた症例である。

漢方と鍼灸は車の両輪と例えられるように、併用による効果が昔より示唆されてきた。併用による
症例報告や今後の研究に期待したい。

検討においては、抽象的な表現よりも客観的な指標を用いる(例えば、細身という表現よりBMIな
ど、痛みもVAS値を使用する)よう、医師から提言があった。

機能性ディスぺプシア診療ガイドライン 日本消化器病学会

鍼灸 推奨なし エビデンスレベル D

[FDGL2_re.pdf \(jsge.or.jp\)](#)

機能性ディスぺプシア診療ガイドライン 日本消化器病学会

漢方薬の一部は有効 提案 エビデンスレベル A

[FDGL2_re.pdf \(jsge.or.jp\)](#)